B 38　好きな被服・嫌いな被服のイメージと自己概念

鳴門教育大　○藤原康晴

目的　人は自分と異なったタイプの人よりも自分と似たタイプの人を好きになる．同様に，人が所有あるいは消費する品についても，自己概念と類似したイメージの品が好まれることが指摘されており，もっとも自己に近接しているものの１つである被服においては自己概念と合致あるいは自己を強化するような被服が好かれることが期待される．ここでは，自己概念の１側面である理想的自己像および現実的自己像と好きな被服，嫌いな被服のイメージを測定し，これらの関連性を検討した．

方法　被服のイメージと自己概念をともに評定できる形容詞対３０項目を選び，女子大生，短大生３１７名に回答をもとめた．

結果　調査によって得た４イメージＸ３１７名Ｘ３０尺度について，まず４Ｘ３１７ケースに対して３０尺度を変数とした因子分析を行った．その結果，第１因子：一般的望ましさ，第２因子：個性を抽出した．つぎに，４Ｘ３１７ケースの因子得点を求め，各イメージごとに３１７名の被験者の平均値を算出し，第１，２因子軸に対してプロットしたところ，理想的自己，好きな被服，現実的自己，嫌いな被服の順にほぼ直線上に布置され，理想的自己を指向したイメージをもつ被服が好まれることがわかった．つぎに，理想的自己，好きな被服についてそれぞれ別々に３０尺度を変数として因子分析を行い，いずれについても一般的望ましさ，個性，情緒性の３因子を抽出した．被験者３１７名の因子得点を算出し，それらの３因子得点間の相関を検討した結果，個性的であることを理想としている人は個性的な被服を好む傾向のあることがわかった．